

# Minami Yamashiro Gakuen

事業報告書 2025

Annual Report

「福祉の出来事」を「地域の出来事」に



社会福祉法人  
南山城学園

## 基本理念

### 01 利用者様の尊厳を守り、幸福を追求する。

私たちは利用者様の人としての尊厳を重んじ、一人ひとりのかけがえのない人生に寄り添い、ともに幸福を追求します。

### 02 地域のニーズにパイオニア精神で取り組み、「共生・共助」の地域づくりに貢献する。

私たちは、社会福祉法人として培ってきた専門性やノウハウを最大限に活かし、地域社会における福祉ニーズに率先して取り組み、課題解決に努めます。また、すべての方が住み慣れた地域で互いに寄り添いながら暮らせる福祉社会の実現に貢献します。

### 03 いつでも誰もが安心して利用できる福祉サービスを創造する。

一人ひとりの特性に応じた適切なサービスを提供するため、さまざまな事業を展開し、安心して利用できる新たな福祉サービスを創造します。

#### The Seven Vows

7つの誓い 南山城学園職員がめざすべき行動基準です。

#### 1 質の向上に向けた意欲と実践

私は、利用者様の幸福のため、利用者ニーズに即応して、結果を出せるよう自らが行動を起こします。

#### 2 ルールと正確性の重視

私は、利用者様、職員など関わるすべての人々の安心・安全のため、ルールを守り正確性を重視します。

#### 3 利用者理解と個別サービスの追求

私は、利用者様の尊厳を守り、利用者様の理解に努め、質の高い個別サービスを追求します。

#### 4 セルファイメージの向上と影響力

私は、社会福祉の一端を担う者としての自覚と自信を持ち、人々に前向きな影響をもたらします。

#### 5 職員の支援と育成

私は、職員として、ともに学び、成長することを、互いの喜び・楽しみとします。

#### 6 チームワークとリーダーシップ

私は、チームの和を大切にしつつ、立場や状況にふさわしいリーダーシップを発揮します。

#### 7 専門性の向上と活用

私は、職務に必要な専門的、組織的能力を身につけ、発展させ、活用します。

## 法人概要

**事業内容** ■ 第一種・第二種社会福祉事業 (障害・高齢・保育・生活困窮者)

■ 公益事業 (診療所・研修事業)

**設立** 1965 (昭和40) 年2月

**代表者** 理事長 磯 彰格

**職員数** 724名 (2026年4月1日現在)

**経常収入** 50.2億円 (2025年度実績)

**事業所** ■ 京都府城陽市  
■ 京都府宇治市  
■ 京都市伏見区・中京区  
■ 大阪府島本町  
障害31か所・高齢3か所・保育6か所など

#### Business Domain

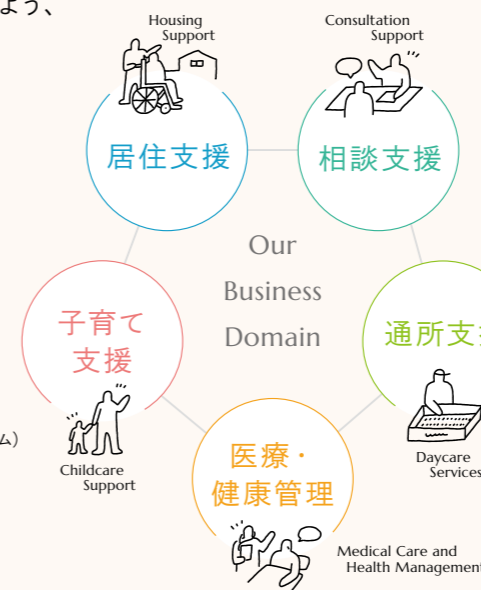
### 事業領域

#### 居住支援

自分らしく幸せに暮らせるよう、生活全般をサポート

[対象]  
主に知的障害のある方や介護保険適用の高齢の方

- 障害者支援施設 円(まどか)
- 障害者支援施設 紡(つむぎ)
- 障害者支援施設 和(なごみ)
- 障害者支援施設 魁(さきがけ)
- 障害者支援施設 翼(つばさ)
- 障害者支援施設 凜(りん)
- 障害者支援施設 光(ひかり)
- 障害者支援施設 輝(かがやき)
- 知的障害者グループホーム (城陽エリア3ホーム・宇治エリア1ホーム)
- 介護老人保健施設 煌(きらめき)
- ショートステイ ふらっぶ



#### 相談支援

住み慣れた地域での暮らしを、続けられるよう相談によりサポート

[対象]  
障害のある方や高齢の方、またはご家族の方

- 山城北圏域障害者総合相談支援センター ういる
- 障害児(者)地域療育支援センター ういる
- 障害者生活支援センター はーもにい
- 障害者就業・生活支援センター はびねす
- 障害児(者)相談支援センター リーふ
- 障害者支援センター じゃすと
- 居宅介護支援事業所 すまいる
- 京都府地域生活定着支援センター ふいっと
- 若年者等就労支援拠点 サザン京都
- 障害児(者)相談支援センター ういっしゅ

#### 子育て支援

子どもの心が動く瞬間を大切にしながら、主体性を育む保育、療育、教育

[対象]  
乳幼児

- もりの詩保育園
- そらの詩保育園 [小規模保育園]
- るりの詩保育園 [小規模保育園]
- みずの詩保育園 [小規模保育園]
- 企業主導型保育 すずの詩
- 認定こども園 ゆいの詩
- こども発達支援 Cocoro 島本
- 学童保育 にじの詩

#### 医療・健康管理

医療と福祉の連携により、安心・安全をサポート

[対象]  
主に施設利用者様

- 南山城学園診療所
- 和光診療所

#### 通所支援

多様なニーズを受けとめ、充実した日中活動の場を提供

[対象]  
地域で暮らす障害のある方や高齢の方

- 知的障害者デイサービスセンター あつぷ
- 身体障害者デイサービスセンター すいんぐ
- 就労移行支援・就労継続支援A型事業所 さびゆいえ
- 障害者デイサービスセンター わこう
- 児童日中一時支援事業所 ちえりー
- 高齢者デイサービスセンター すまいる
- 通所リハビリテーション 煌(きらめき)
- 認定生活困窮者就労訓練事業所
- デイセンター ふらっぶ

障害者支援施設  
利用者数 (8施設・日次単位)  
延べ 127,627人

介護老人保健施設  
利用者数 (1施設・日次単位)  
延べ 33,726人

認定こども園・保育所  
利用者数 (5園・日次単位)  
延べ 95,404人

障害児・者  
相談件数  
延べ 12,800件

休日・夜間  
相談件数  
延べ 1,464件

就労相談就職者数  
(はびねす+サザン京都)  
156人

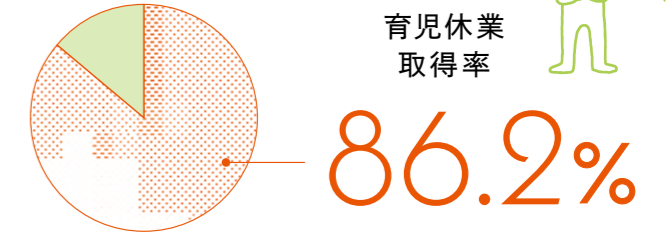
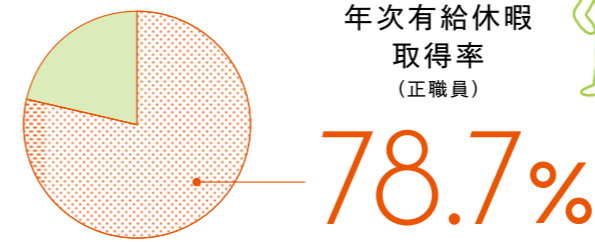
平均年齢  
(正職員)  
35.36歳

有資格者数  
(介護福祉士・社会福祉士・ケアマネージャー・保育士)  
延べ 426人

EPA  
受け入れ数 6人



職員研修数  
264回



カフェ  
来客数  
延べ 19,056人

こども食堂  
利用者数  
延べ 649人

障害者・生活困窮者等  
就労相談件数  
延べ 9,562件  
(はびねす+サザン京都)

総合職  
新規採用職員数  
(大学・短期大学等卒)  
41人

実習・インターンシップ  
受け入れ人数 87人

メディア等  
掲載件数 33件

Minamiyamashiro Gakuen in Numbers  
数字で見る 南山城学園  
(2025年4月 ~2026年3月)

## 理事長ご挨拶

### 「福祉の出来事」を「地域の出来事」へと変えていくために ～地域とともに紡ぐ、福祉の新しい風景～

昨年、社会福祉法人南山城学園は創立60周年という大きな節目を迎えました。半世紀を超える歩みを支えてくださった利用者様、ご家族、地域の皆さま、そして多くの関係機関の皆さまに、あらためて深く感謝申し上げます。私たちが大切にしてきたのは、「人を支えるのは人しかいない」という揺るぎない理念です。この不易の精神を礎に、時代の変化に応じて実践を磨き続けてまいりました。

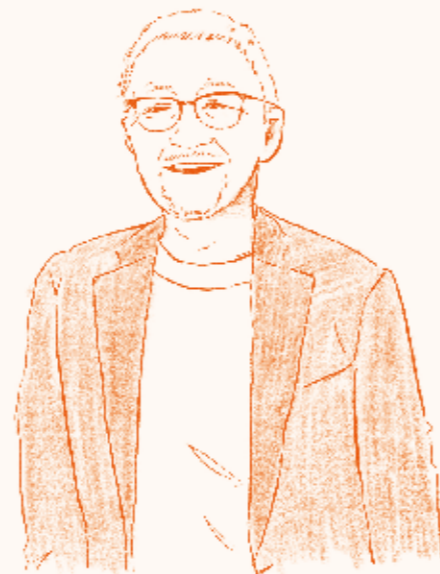
2025年4月からは、新たな10年の指針となる「ネクストビジョン2035」が始動しました。「Quality（暮らしの質）」「Resource（資源の活用）」「Creativity（創造性の発揮）」の三本柱のもと、制度や分野の境界を越えて支援を編み直し、地域の暮らし全体を支える法人としての役割をさらに強めてまいります。これに基づく「中期経営計画2030」では、子育て支援の拡充として、小規模保育事業「みずの詩保育園」、学童保育「にじの詩」を2025年秋冬に開設いたしました。乳幼児から高齢者まで、地域のライフステージに寄り添う支援の網目をより細やかに広げてまいります。

今、私たちがめざしているのは、福祉を地域にひらき、地域の営みと自然に重なり合う実践を積み重ねていくことです。農福連携による無農薬栽培、工福連携（KOUFUKU）によるロボット技術を活用した就労モデル、多世代交流の拠点となるこども食堂、地域に開かれたカフェ、そして福祉避難所としての防災機能——これらの取り組みは、「福祉の出来事」を「地域の出来事」へと変えていくための実践そのものです。利用者様の活動が地場産業を支え、地域の文化や安全を守る力となり、福祉が地域の風景の一部として息づく未来を、地域の皆さまとともに描いてまいります。

さらに私たちは、地域社会が直面する新たな地域生活課題——孤独・孤立、生活困窮、8050問題、つながりの希薄化——にも積極的に向き合っています。2025年度は、大阪府「孤独・孤立対策公民連携プラットフォーム」への参画をはじめ、夜カフェや若者支援、相談支援の強化など、地域の“見えにくい困りごと”に寄り添う取り組みを進めてまいりました。福祉が地域のセーフティネットとして機能するだけでなく、誰もが気軽に立ち寄れる“つながりの場”をひらき、地域の中に新たな関係性を生み出していくこと——これこそが、「福祉の出来事」を「地域の出来事」へと変えていくための大切な一歩であると考えております。

人口減少、価値観の多様化、技術革新など、社会は大きく揺れ動いております。しかし、どれほど時代が変わろうとも、利用者様の幸福を追求するという私たちの理念は決して変わりません。だからこそ、「変わらないために、変わり続ける」。この姿勢を胸に、次の10年も地域とともに歩み、誰もが安心して暮らせる社会の実現に向けて挑戦を続けてまいります。

社会福祉法人 南山城学園  
理事長 磯 彰 格 (いそ あきただ)



## 「ネクストビジョン2035」を策定

南山城学園では、法人創立50周年となった2015年2月に、中長期の経営計画として「ネクストビジョン2025」を定めました。ネクストビジョン2025は、「長期ビジョン2025」と「中期経営計画2020/2025」から構成されます。2015年以降10年間に予想される経営環境を見据えて、法人理念を実現するために目指すべき方向性を示し、計画に基づき実行してまいりました。2025年3月、法人創立60周年と「ネクストビジョン2025」の終期を迎えることから、次期の「ネクストビジョン2035（長期ビジョン2035と中期経営計画2030）」を策定しました。

## NEXT VISION 2035

「長期ビジョン2035」は、引き続き、法人理念を実現するために目指すべき方向性を示すものとして、下記の3本柱とします。



「私たちは関わるすべての人々の尊厳を守り幸福を追求し、お一人おひとりの理解に努め、寄り添いながら質の高い個別サービスを提供していきます。」

「私たちは、これまで培ってきたノウハウや人財を活用し、地域福祉の充実・発展を通じて、共生・共助の地域づくりに貢献していきます。」

「私たちは、これから先の時代が求める福祉課題に対応し、関わるすべての人々が自分らしく暮らせるよう、新しい福祉サービスを創造し、実践していきます。」

「中期経営計画2030」は、前5カ年の行動目標である「中期経営計画2025」を引き継ぎ、2025年4月～2030年3月までの5カ年の行動目標を定めたものです。人口減少や物価高騰などの社会情勢の変化に対応するとともに、地域共生社会の実現に向けて、複雑化・複合化する地域生活課題への対応など、社会福祉法人に求められる役割を一層果たすべく、本計画を実行していきます。

中期経営計画（Plan）		2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	SDGsにおける目標
暮らしの質の向上	<b>1 人材確保・育成・定着と生産性向上</b> 地域の人々の暮らしを支え、質の高い福祉サービスを提供し続けるため、働きやすく働きがいのある人事制度の構築や研修制度の見直し、AI・ICTの活用による生産性の向上等を通じて、人材確保・育成・定着の更なる強化を図る。	人事制度・研修体系の見直し検討	新研修体系に基づく研修開始				 成長・雇用  イノベーション
	<b>2 障害者支援施設とグループホームの再編</b> 法人が60年にわたり培ってきた障害分野のノウハウをもとに、重度障害者の支援強化や地域移行の推進など、将来のニーズを見据えた施設の役割や機能を整理し、再編する。	情報分析 制度動向の把握	再編計画の策定				 健康・福祉
	<b>3 社会的養育事業の展開</b> 社会的養護を必要とする子どもや家族に適切な支援が届く重層的な施策の構築が求められるなか、新たに乳児院を開設し、医療的ケアや発達障害などのニーズにも対応する。	情報分析 制度動向の把握		工事～開設準備	乳児院の開設		 健康・福祉
	<b>4 こども事業の拡充と医療的ケアの強化</b> 子育て世帯が増加する地域での保育や学童ニーズに加え、専門的な支援ニーズに対応するため、発達障害に特化したクリニックと、医療的ケアに対応できる認定こども園を開設する。また、教育分野と連携し、放課後等デイサービスや学童保育を開設する。	学童保育・放課後等 デイサービスの開設		工事～開設準備	クリニック・認定こども園の開設		 健康・福祉  教育
経営資源の有効活用	<b>5 研究・研修事業の強化</b> スーパーバイザーの外部派遣をはじめ、法人が60年にわたり培ってきたノウハウ・資源・人材を地域社会へ還元し、福祉人材の育成に貢献する。また、産官学連携による共同研究を強化し、新たな福祉サービスを創出するとともに、広く社会に発信する。		既存事業の継続（スーパーバイザーの派遣等）			研究・研修センターの開設	 成長・雇用  パートナーシップ
	<b>6 災害対応の強化</b> 災害発生時の利用者支援体制を強化するため、BCPの見直しや自家発電設備の整備を進める。また、地域支援体制の強化として、福祉避難所の運営訓練の継続実施や専門人材の配置を進める。	・BCP見直し ・自家発電設備の整備 ・福祉避難所の運営訓練の実施	専門人材の配置				 健康・福祉  エネルギー
創造性の発揮	<b>7 地域生活課題への対応強化</b> 地域共生社会の実現に向けて、社会福祉法人の役割を一層果たすべく、孤独・孤立や生活困窮、多世代交流等、複雑化・複合化する地域生活課題に「地域における公益的な取組」の実践を通じて対応する。	情報分析 制度動向の把握	既存事業の発展 (生活困窮者・ひきこもり支援等)				 貧困  まちづくり

initiatives  
01

「福祉の出来事」を  
「地域の出来事」に

(2025年4月～2026年3月)

南山城学園は、社会福祉法人として培ってきた専門性やノウハウ、地域との確かなネットワークを活かし、福祉を地域にひらく実践を進めています。制度や分野の境界を越えて支援を編み直し、人が集い、支え合う場を地域の中に育ててきました。こうした取り組みが重なり合うことで、「福祉の出来事」は地域の日常に溶け込み、「地域の出来事」として共有される新しい風景が生まれています。

1

福祉  
×

多世代交流



世代をこえて育つ  
学びと交流の場へ

春日野小学校との交流会や保育園児との工作、高齢者サロン訪問など、子ども・高齢者・障害のある方が自然に交わる場が広がりました。ポッチャ体験や昔遊びを通じて互いの理解が深まり、地域で共に生きる実感を育む取り組みが進んでいます。

・輝 ・もりの詩

2

福祉  
×

大学



大学との協働が生む  
新しい支援のかたち

京都文教大学と「ふらっと相談所」を学内に開設し、学生・卒業生・家族まで幅広く相談を受け止める体制を整備。龍谷大学とはこども食堂のボランティアやKOUFUKU連携など、学びと実践が循環する協働が進み、地域の若者支援の基盤が強化されています。

・サザン京都 ・宇治小倉 ・魁

3

福祉  
×

防災



日常に根づく“備え”が  
地域の安心を支える

「空白の5分間」に備えた水平避難の確立、止水板訓練や備蓄強化、家族参加型の災害勉強会など、各施設で防災力の底上げが進みました。実践的な訓練と地域との協働により、災害時にも揺るがない支援体制が築かれています。

・紡 ・凛 ・すいんぐ ・すまいる

4

福祉  
×

子育て拠点



子育て家庭を支える  
“地域の頼れる場所”へ

病児保育・一時保育の充実、Cocoro島本での送迎サービスの開始、こども食堂の開設など、子育て家庭の不安に寄り添う支援が広がりました。看護師と保育教諭による専門的な見守りや、遊び・食事を通じた交流が、地域の子どもたちの安心を支えています。

・ゆいの詩 ・Cocoro島本  
・もりの詩 ・あんさんぶる宇治

5

福祉  
×

地域交流



地域にひらく場が生む  
自然なつながり

作品展示、焚火会、花いっぱい運動、子ども食堂、PECS体験など、地域住民と利用者様が交流する機会が多様に展開。創作・体験・語らいを通じて、福祉の営みが地域の日常へと溶け込み、互いを理解し合う関係が育まれています。

・わこう ・紡 ・凛 ・光 ・るりの詩  
・翼 ・城陽グループホーム支援室 ・煌  
・はーもにい

6

福祉  
×

産業



企業・産業との協働が広げる  
新たな価値

ふるさと納税返礼品として全国へ届けられるパン、企業食堂での催事販売、大学とのKOUFUKU協働によるセンサー製作など、福祉と産業が連携した取り組みが進展。利用者様の働く喜びと地域への貢献が両立する新しいモデルが生まれています。

・センター島本 ・魁

7

福祉  
×

まちづくり



地域と共に未来を描く  
協働の実践

地域連携推進会議、まちづくり協議会参画、グループホーム再編に向けた地域ニーズ調査など、地域と対話しながら暮らしを支える仕組みづくりが進行。福祉が地域のインフラとして機能する姿が形になりつつあります。

・和 ・宇治小倉ホーム  
・城陽グループホーム支援室



2025年7月12日、南山城学園は創立60周年という節目を迎え、ホテルグランヴィア京都にて記念式典を開催しました。当日は役員・職員・関係機関など約120名が参集し、法人の歩みを振り返り、次の10年に向けた決意を共有する場となりました。

式典は、法人の歴史を映し出すオープニングムービーで幕を開け、続いて理事長・磯彰格が挨拶に立ちました。創立以来の支えとなってきた利用者様・ご家族・地域の皆様、行政・関係機関への深い感謝を述べるとともに、初代理事長・磯斉志が遺した言葉「この道は遠くとも」に込められた覚悟と希望を紹介しました。この言葉は、困難な時代にあってもより良い社会を目指す南山城学園の精神として、今も受け継がれています。

特別講演では、まず常務理事・西田周二が「激動の10

年間」を振り返り、ネクストビジョン2025のもとで進めてきた改革と挑戦を紹介しました。続いて、作家・安達茉莉子氏、株式会社ねき坂田佐武郎氏、ぼくみん今津新之助氏が潜入取材を通して見えた南山城学園の魅力を語り、現場に息づく専門性と温かさを多角的に伝えました。

最後に、理事長・磯彰格が「ネクストビジョン2035」を掲げ、Quality（暮らしの質の向上）、Resource（経営資源の有効活用）、Creativity（創造性の発揮）の三本柱を軸に、次の10年に向けた展望を示しました。

式典後の祝賀会では、後援会から祝辞が寄せられ、原田博行氏によるサウンドロゴの生演奏が会場を和やかに包み、節目にふさわしい温かな時間となりました。

### 60周年記念事業

創立60周年を記念し、作家・安達茉莉子氏が南山城学園を潜入取材した『らせんの日々 —作家、福祉に出会う』（ぼくみん出版会）を刊行するとともに、南山城学園の理念を音で表現したサウンドロゴを制作し、KBS京都ラジオで放送を開始しました。



南山城学園サウンドロゴ



『らせんの日々—作家、福祉に出会う』（ぼくみん出版会）



創立60周年を迎えた2025年、南山城学園は「ネクストビジョン2035」と「中期経営計画2030」に基づき、大阪府島本町に小規模保育「みずの詩保育園」と学童保育「にじの詩」を開設しました。子育て世代の転入が続く島本町では保育・学童の需要が高まっており、本事業は地域の期待に応える取り組みとなります。

「みずの詩保育園」は、島本町の名水「離宮の水」に由来し、子どもたちが安心して成長できる場を目指しています。少人数制を活かし、一人ひとりに寄り添う家庭的な保育を実践し、「こどもが、まんなか」をモットーに主体性を育む環境づくりを進めています。また、ICTツール「ほいくweb」を活用し、子どもの学びの姿を保護者と共有しています。

「にじの詩」は町内初の民間学童として誕生し、子どもたちの「やってみたい」を起点としたアクティブラーニング型のプログラムを展開しています。地域の自然や文化を活かした体験活動を通じて創造力や社会性を育み、「まち全体を学びのリソースに」という理念のもと、地域との協働を重視しています。

南山城学園は今後も、地域とともに育ち、地域とともに歩む子育て支援の拠点として、島本町の未来を支えてまいります。

#### 小規模保育「みずの詩保育園」

事業内容：保育19名  
利用者層：乳児  
所在地：大阪府三島郡島本町

#### 学童保育「にじの詩」

事業内容：学童保育40名  
利用者層：児童（小学校1年生～6年生）  
所在地：大阪府三島郡島本町

施設長  
上島昇悟



障害者支援施設

# 円

まどか

知的障害が重く、意思表示が困難な方々を対象に、一人ひとりの特性に応じたきめ細かな支援を生活の全般にわたって行っています。



## Topic 01 意思決定支援の深化 — 経験の幅を広げる「意思形成」への挑戦

「円」では、重度の知的障害があり意思表示が難しい利用者様に対し、「意思決定支援」の質を高めるため、選択の前段階である「意思形成支援」に重点的に取り組みました。多様な経験を通じて「好き・嫌い」「やりたい・やりたくない」といった感情を育むことを目的に、晩酌体験やアロマによるリラクゼーション、創作活動、猫カフェでの交流、チョコレートの購入体験など、感性を刺激する初体験の機会を数多く創出しました。こうした取り組みは、利用者様の新たな表情や好みを引き出し、支援員にとってもその方の理解を深める貴重な学びとなりました。



地域へ開く「やりたい」の芽

## Topic 02 希望別外出の全面再開 — 一人ひとりの「行きたい」を形に

コロナ禍で制限されていた外出支援を、2025年度は「すべての利用者様に希望別外出を」という方針のもと全面再開しました。行き先は一律ではなく、個々の興味関心を丁寧に聞き取り、鉄道博物館、水族館、動物園、映画村、人形劇鑑賞、遊園地、みかん狩り、温泉など、多彩な外出が実現しました。外出後には「楽しかった」「また行きたい」と笑顔で話される姿が多く見られ、社会との接点をもたらす喜びと生活への活力を再確認する一年となりました。利用者様の「今、やりたいこと」に寄り添う支援の大切さを改めて実感する取り組みとなりました。



地域と交わる喜びの外出

## Topic 03 笑顔があふれる「スマイル円」へ — 丁寧な意思形成支援の定着

2025年度の取り組みを通じて、丁寧な「意思形成支援」が利用者様の生活の質(QOL)を確実に高めることが明らかになりました。絵カードや写真の活用、支援員による粘り強い観察と環境設定により、意思の表出が難しいとされる方でも豊かな希望を形にできる場面が増えています。次年度以降も、このプロセスを支

援の基本に据え、意思の表出から実現までを一貫して支える体制を強化します。利用者様、ご家族、職員の笑顔があふれる「スマイル円」の実現に向け、円はこれからも一歩ずつ歩みを進めていきます。

事業内容：生活介護60名、施設入所60名、短期入所4名  
利用者層：重度知的障害のある方  
所在地：城陽市富野狼谷(本園)

施設長  
松井一真



障害者支援施設

# 紡

つむぎ

障害のある方々が高齢期を迎えてからの生活の場を整備し、健康管理に十分な配慮をしながら、安全で尊厳のある日々の暮らしを支えています。



## Topic 01 現実的・合理的な避難方法の確立 — 命を守るための「空白の5分間」への挑戦

「紡」では、高齢期を迎えた利用者様の安全を守るため、災害発生時の避難体制を抜本的に見直しました。特に、消防隊が到着するまでの「空白の5分間」に焦点を当て、限られた職員数でも確実に実行できる現実的・合理的な避難方法の確立を目指しました。城陽消防署の協力のもと、煙の拡散を防ぐ区画形成や、階段を使わず同一階層の安全な区画へ移動する水平避難を導入し、形式的な訓練から一歩踏み込んだ実践的な訓練を重ねました。2年間の取り組みは法人内の実践研究発表会でも報告され、利用者様とご家族に大きな安心をもたらす成果となりました。今後も「安全」を日常の一部として定着させる体制づくりを進めていきます。



地域と支え合う防災のかたち

## Topic 02 木工×福祉プロジェクト — 地域と交わり、役割を実感する参画のかたち

「紡」では、生活の充実だけでなく、利用者様が地域社会の一員として関わる機会を大切にしています。2025年度は「木工×福祉プロジェクト」を通じ、地域の子どもたちや住民の皆様と共に活動する場が広がりました。11月の「富野っ子わくわく教室」では、利用者様と地元・富野小学校の児童が協力して薪割りに挑戦。世代を越えた共同作業は、互いに声を掛け合いながら進める温かな時間となりました。また、法人敷地内で開催した「焚火会」には地域住民が多数参加し、焚火を囲みながら自然な交流が生まれました。自分たちの活動が誰かの喜びにつながるという実感は、利用者様にとって大きな自信となり、地域に開かれた施設としての存在感をさらに高める一年となりました。



木工が灯す地域のつながり

事業内容：生活介護37名、施設入所37名、短期入所1名  
利用者層：知的障害のある高齢の方  
所在地：城陽市富野狼谷(本園)

施設長  
村地正浩



障害者支援施設

# 和 なごみ

障害のある方々が高齢期を迎えてからの生活の場を整備し、健康管理に十分な配慮をしながら、安全で尊厳のある日々の暮らしを支えています。



## 地域と共に歩む —— 地域連携推進会議を通じた絆の再確認

「和」では、利用者様と地域社会とのつながりをより確かなものとするため、2025年度より義務化された「地域連携推進会議」を開催しました。城陽市福祉課、地域代表、保護者代表、利用者代表が一堂に会し、施設運営の透明性や支援の質について多角的な意見交換を行いました。地域代表からは「法人は地域の貴重な資源であり、緊急時の受け入れなど多大な協力をいただいている」との評価をいただき、保護者様からは日々の支援への感謝の声が寄せられました。また、利用者代表の主体的な発言は、地域と施設が対等な関係で結ばれていることを象徴するものでした。和が長年大切にしてきた地域との協働を、今後さらに発展させる指針となる会議となりました。



地域と築く信頼の輪

## 日常をリハビリに —— “ながら運動”による生活機能の維持と向上

高齢期の利用者様にとって、身体機能の維持は自立した生活を続けるための重要な基盤です。「和」では、特別な訓練時間を設けるのではなく、日常生活そのものをリハビリに変える「ながら運動」を導入しました。食事前の椅子への座り替えによる立ち上がり動作、入浴準備時の立位保持、ラジオ体操でのバランスディスク使用など、生活の中に自然に運動要素を組み込む工夫を行いました。短期間で劇的な筋力向上には至らなかったものの、食事用の椅子に座り替えることで「これから食事をする」という意識が高まり、結果として食事摂取量が増加するなど、生活リズムの改善につながる副次的効果が生まれました。日常の質を高める新たなアプローチとして、今後も継続して取り組んでいきます。



暮らしに溶け込むリハビリ

事業内容：生活介護35名、施設入所35名、短期入所2名  
利用者層：知的障害のある高齢の方  
所在地：城陽市富野狼谷(本園)

施設長  
山口嘉信



障害者支援施設

# 魁 さきがけ

一般企業等での就職がむずかしい方たちが地域で働きながら暮らすことを目標に、基本的な生活スキルを身に付け、就労の継続につながる支援を行っています。



## Topic 01 福祉 × 大学 KOUFUKU連携 —— 利用者様とロボットが協働する新たな実践

「魁」では、工賃向上と地域貢献をめざすKOUFUKU連携の一環として、利用者様とロボットが協働して湿度・温度センサーを製作しました。龍谷大学との協働によりセンサーのプログラミングを実施し、彩雲祭でのワークショップ開催や居室での試験運用を実施。ワークショップでは地域の方との交流を通じて利用者様の意欲向上が確認され、試験運用ではエアコン操作回数が37%減少するなど、生活環境の改善にも成果が見られました。センサーボードの多用途展開も期待され、KOUFUKU連携の新たな可能性が広がっています。



工福がつなく地域の輪

## Topic 02 暮らしの基盤を整える —— 5S活動と居住環境の向上

魁では、2024年度から続く大規模修繕に合わせ、居室環境の整理整頓を定着させる「5S(整理・整頓・清掃・清潔・習慣)」活動に注力しました。休日を活用し、職員2名が各居室を訪問。利用者様一人ひとりの思いやこだわりを尊重しながら、その方に合った整理方法を共に検討しました。整った居室は担当職員が定

期的に訪問し、掃除を一緒に行う習慣づくりへとつなげています。「自分の生活環境を自ら整える」意識の芽生えは、就労場面で求められる環境管理の力にも直結します。今後も清々しい日々を支える環境づくりを継続していきます。

## Topic 03 共に学び、高め合う —— 参加型研修によるチーム力の強化

2025年度は、職員が主体的に学びを深める参加型・提案型の施設内研修を実施しました。4~5名の小グループに分かれ、テーマ設定から資料作成、当日のプレゼンまでを自ら完結させる形式を採用。第1回「誤嚥」、第2回「グレーゾーン」、第3回「意思決定支援」と、現場に直結する重要テーマを深く掘り下げました。講師役と受講者が互いに学び合う対話の場となり、研修後アンケートでは学びの質が平均4.5以上、実施側の自己評価も4.0以上と高評価。「次年度も継続したい」との声も多く、共通の目標に向かう経験がチーム力を一層強固にしました。



研修が結ぶ支援の一体感

事業内容：生活介護54名、施設入所60名、就労継続支援A型11名、就労継続B型15名、短期入所1名  
利用者層：就労を希望する障害のある方  
所在地：城陽市富野狼谷(本園)

施設長  
長野美香



障害者支援施設

# 翼

つばさ

重い知的障害と自閉症等の発達障害、行動上の課題を併せもちながら、青年期を迎えた方たちを主な対象とする個室ユニット型の施設です。



## Topic 01 専門性の高い支援体制の構築 — 重度障害者支援加算18点以上の算定と運用

「翼」では、行動面に顕著な課題を持つ利用者様に対し、より専門的で手厚い支援を提供するための体制整備を進めています。2025年度は、2024年度報酬改定で整理された「重度障害者支援加算(18点以上)」の算定に向け、アセスメントの精度向上と運用の最適化に取り組みました。定期的なモニタリングを通じて利用者様一人ひとりの特性を多角的に分析し、行動の背景要因を科学的に捉えた個別支援計画の質が大きく向上。予測に基づく環境設定や、行動障害を未然に防ぐコミュニケーション支援の強化により、情緒の安定と安全なユニット生活の維持が実現しています。専門性を基盤に、安心して暮らせる環境づくりを今後も推進していきます。



専門性による安心・安全の暮らし

## Topic 02 意思を尊重し、共に創る暮らし — 利用者自治会の定期開催

「翼」では、利用者様の主体性を大切にしたい暮らしの実現をめざし、2025年度に利用者自治会の組織化と定期開催を進めました。自治会では、食事メニューやレクリエーション内容といった日々の楽しみに関する意見交換に加え、利用者様自身の権利について学ぶ学習会も実施。定期的な対話を通じて得られた声を丁寧に受け止め、居室環境の調整や日課の改善に反映しました。自らの意見が生活に反映される経験は、利用者様の安心感と納得感を高め、落ち着いた生活リズムの形成にもつながっています。自治会は、利用者様と職員が共に暮らしを創り上げるための大切な場として、今後も継続していきます。



対話が創る“その人らしい”暮らし

## Topic 03 福祉教育の推進 — 子どもたちと学ぶ“ちがひ”

「翼」の若手職員が富野小学校5年生に向けて福祉教育を実施しました。視覚障害をテーマに、五感の違いや見え方の多様性を体験的に学べる内容を構成。白杖・点字・音声信号など、日常にある支援の仕組みも紹介しました。子どもたちは「見えにくさ」を自分ごととして考え、困りごとや必要な配慮について活発に意見を発表。障害を“特別なもの”ではなく、“誰にでもある違い”として捉える視点が育まれました。地域の子どもたちと共に学ぶこの取り組みは、福祉を身近に感じる大切な一歩となっています。



学びがつなぐ福祉と地域

事業内容：生活介護35名、施設入所35名、短期入所2名  
利用者層：重度知的障害のある方  
所在地：城陽市観音堂甲畑

施設長  
西田武志



障害者支援施設

# 凜

りん

障害が重くても適切な支えがあれば地域のなかで暮らせる方々が、その力を十分に発揮しながら地域社会の一員として生活することを支援しています。



## Topic 01 専門性の追求 — 利用者支援の充実を支える職員育成

「凜」では、利用者様への支援の専門性をさらに高めるため、2025年度は職員育成の強化を最優先課題として取り組みました。年間計画に基づく体系的な研修プログラムを整備し、自閉スペクトラム症や精神障害に関する基礎知識の習得に加え、PECS(絵カード交換式コミュニケーションシステム)の学習を重点的に実施。利用者様の小さな変化や声を丁寧に汲み取る力を育み、個別性に配慮した支援を実践できる体制を整えました。こうした継続的な学びが、支援の質を底上げする確かな土台となっています。



専門性が育む寄り添いの力

## Topic 02 安心の土台づくり — 施設の孤立化に備えた災害対策の強化

「凜」では、緊急時にも揺るぎない支援を継続するため、「施設の孤立化」を想定した災害対策を重点的に強化しました。水害リスクに備え、止水板の設置訓練を繰り返し行い、迅速な初動体制を確立。また、物流が途絶した場合でも生活を維持できるよう、備蓄食や物資の確保を徹底しました。「困った時に困らない」ための具体的な準備を積み重ねたことで、災害時のレジリエンスが大きく向上。利用者様の安全と安心を守るための確かな備えが整いつつあります。



安全と安心を守る備え

## Topic 03 地域社会との融和 — 花いっぱい運動が生む彩りある交流

「凜」は、地域に開かれた施設として、地域住民の皆様との交流を大切にしています。2025年度も「城陽市花いっぱい運動」に参加し、春と秋の年2回、地元フラワーショップの協力のもと、利用者様と地域住民と一緒に寄せ植えを行いました。完成したプランターは施設前の歩道に設置され、地域の景観を彩る存在に。利用者様にとっては地域に貢献する喜びを実感する機会となり、住民の方々にとっても自然に触れ合う温かな交流の場となりました。福祉と地域が交わる象徴的な取り組みです。



花が結ぶ地域のつながり

事業内容：生活介護40名、施設入所40名、短期入所2名  
利用者層：地域移行を希望される重度知的障害のある方  
所在地：城陽市富野東田部

施設長  
赤塚信隆



障害者支援施設

# 光 ひかり

重い知的障害に自閉症を併せもたれている方たちが、意思疎通や意思決定を行えるようになるための専門的な支援を行っています。



Topic 01  
福祉 × 地域交流

## PECSを地域へ ― 子ども食堂で広がる“言葉に頼らない”交流の輪

「光」では、強度行動障害のある利用者様との確実なコミュニケーション手段としてPECSを活用していますが、その有効性は地域ではまだ十分に知られていません。そこで2025年度は、利用者様とともに地域の子ども食堂へ参画し、PECSを体験していただく啓発活動を実施しました。会場では、子どもたちが絵カードに触れ、利用者様と自然に意思を通わせる姿

が見られ、「言葉に頼らないコミュニケーション」が地域に広がる瞬間となりました。強度行動障害という言葉だけでは距離を感じてしまう地域の方々にとっても、PECSが架け橋となり、理解と交流が深まる貴重な機会に。福祉の営みが地域の日常へと溶け込む象徴的な取り組みとなりました。



PECSが結ぶ地域の輪



笑顔でつながる地域の時間

Topic 02

## 専門性の継承と深化 ― 研修委員会の創設による多角的な職員育成

「光」では、支援の質を組織的に高め、次世代へ確実に継承していくため、2025年度に新たに研修委員会を立ち上げました。感染症予防や虐待防止といった必須研修の確実な実施に加え、当施設の核となる自閉症支援に特化したPECS（絵カード交換式コミュニケーションシステム）の内部研修を強化。現場経験の豊富なシニア層やエキスパート職員が講師を務めることで、受講側の理解が深まるだけでなく、講師側にとっても自身の技術を言語化し、伝える力を磨く機会となりました。次年度以降はミドル層にも講師役を広げ、教え合い・学び合う文化を施設全体に根付かせ、専門性の高い支援体制をさらに強固にしていきます。



学び合いが支える専門性

事業内容：生活介護42名、施設入所42名、短期入所3名  
利用者層：重度知的障害のある方  
所在地：京都市伏見区日野

施設長  
高阪篤史



障害者支援施設

児童日中一時支援事業所

# 輝 かがやき

# ちえりー

高齢期を迎えた知的障害のある方が現在の生活を継続できるよう支えながら、趣味や余暇活動の充実を図っています。また、「ちえりー」では、障害のある18歳以下の方に休日に安心して過ごせる場を提供します。



Topic 01  
福祉 × 多世代交流

## 地域の子もたちとの交流 ― 多世代がつながる学びと体験の場

「輝」では、次世代を担う子どもたちとの交流を通じて、地域に開かれた施設づくりを進めています。春日野小学校4年生との交流会では、職員がパワーポイントを用いて「障害」について解説し、理解を深める啓発活動を実施。その後、施設見学や利用者様とのポッチャ体験を行い、互いの距離が自然と縮まる温かな時間となりました。また、辰巳保育園との交流会では、多目的ホールで園児と利用者様が一緒に工作を楽しみ、多世代が交わる貴重な機会に。こうした取り組みは、地域の子もたちにとって福祉を身近に感じるきっかけとなり、利用者様にとっても笑顔あふれる交流の場となっています。



地域交流が結ぶ多世代の輪

Topic 02

## サービスの質向上と安全管理 ― 第三者評価と研修の充実

「輝」では、サービスの質向上と安全管理を継続的に強化するため、2025年度に第三者評価を受審しました。現場職員を中心に委員会を立ち上げ、運営体制や支援内容を丁寧に点検。客観的な視点から改善点を見つめ直す機会となりました。また、施設内研修も充実させ、排泄ケアや権利擁護などの講義形式の

研修を5回実施。さらに、誤嚥や意識消失といった緊急時対応を想定したロールプレイング研修を10回重ね、危機管理能力の向上を図りました。利用者様の安心・安全を守るための基盤づくりが着実に進んだ一年となりました。

Topic 03

## 施設DXの推進 ― 起立補助器「サラ・フレックス」の導入によるケアの質向上

「輝」では、ICTや機器の活用による施設DXを推進し、利用者様と職員双方にとってより良い環境づくりを進めています。2025年度は、新たに起立補助器「サラ・フレックス」を導入。利用者様にとっては、安全で安定した起立動作をサポートすることで、身体への負担を軽減しながら自立的な動作を促す効果が得られています。一方、職員にとっては、身体介助に伴う負担が大幅に軽減され、ケアの質と職場環境の両面で改善が進みました。機器導入を通じて、利用者様の尊厳を守りながら、安心して暮らせる環境づくりを支える取り組みが着実に広がっています。



DXが支える安心・安全のケア

事業内容：生活介護58名、施設入所58名、短期入所7名、[ちえりー] 児童日中一時支援  
利用者層：知的障害のある高齢の方・知的障害のあるお子さん  
所在地：京都市伏見区日野

施設長  
吉岡弘樹



# 知的障害者 グループホーム 城陽



知的障害をもちながらも、社会への適応能力を身に付け、地域での生活が可能となった方々が、安全に安心して暮らすための共同生活の場を運営しています。

Topic 01  
福祉 × まちづくり

## 将来に向けたグループホーム再編 —— 地域ニーズを踏まえた住まいの検討

「グループホーム支援室」では、観音堂ホームの老朽化という課題を見据え、次代に求められる住まいのあり方を検討する取り組みを進めました。まず、地域の実情とニーズを正確に把握するため、近隣事業所や山城北圏域の相談支援事業所など、計20か所に協力を依頼し、アンケート調査を実施。利用者様やご家族が求める生活環境、地域から寄せられる期待、現行体制の課題など、多角的な視点から意見を収集しました。これらの声は、将来の再編に向けた重要な指針となり、より最適で持続可能な住まいを実現するための基盤づくりにつながっています。地域に根ざしたグループホームとして、今後も丁寧な対話と検討を重ねていきます。



開設当時の観音堂ホーム

Topic 02  
福祉 × 地域交流

## 地域共生の推進 —— 長池まちづくり協議会への参画が生む新たなつながり

「グループホーム支援室」では、地域の一員としての役割を果たすため、2025年度より「長池街づくり協議会」へ正式に参画しました。これまでも商店街イベントなどに参加してきましたが、2025年度はさらに一步踏み込み、定例会議や地域活性化事業にも積極的に関わりました。地域住民の皆様と共に街の未来を考えるプロセスに参加することで、利用者様が地域に受け入れられ、自然に交流できる機会が増えています。また、協議会を通じて得られた地域の声は、グループホームの運営改善にも活かされ、地域と施設が相互に支え合う関係性がより強固なものとなりました。地域共生を体現する取り組みとして、今後も継続していきます。



地域と結ぶ新たなつながり

事業内容：共同生活援助 42名  
利用者層：知的障害のある方  
所在地：[ホーム支援室・長池ホーム] 城陽市長池里開／  
[観音堂ホーム] 城陽市観音堂甲畑／[鷺坂ホーム] 城陽市長池河原

室長  
小関徹史  
(城陽グループホーム支援室)



介護老人保健施設

居宅介護支援事業所

# 煌 きらめき すまいる



心身をリフレッシュできる快適な空間でのリハビリを通して、在宅復帰への意欲を喚起し、地域社会の一員として活力ある生活を継続できるよう支援しています。「すまいる」では在宅の方のケアマネジメント事業も展開しています。

Topic 01  
福祉 × 地域交流

## 体験から広がる介護の輪 —— 出張介護教室の開催

「煌」では、地域住民の皆様介護をより身近に感じていただくため、アル・プラザ城陽にて「出張介護教室」を開催しました。当日は子どもから高齢者まで幅広い世代が訪れ、想定を大きく上回る200名以上が来場。体験型をコンセプトとした会場では、車いす体験や体力測定を通じて、実際に身体を動かしながら介護への理解を深めていただきました。また、相談ブースでは職員が日常生活の不安や疑問に丁寧に対応し、介護に関する身近な相談の場としても機能しました。体験と対話を組み合わせたこの取り組みは、地域全体で介護を支え合う意識を育む大きな一歩となり、地域福祉の新たな可能性を広げています。



体験が結ぶ地域の介護

Topic 02

## 多様な人材の活躍 —— EPA2期生の受け入れがもたらす新しい風

「煌」では、組織の活性化と専門性の多様化をめざし、2024年度のEPA(経済連携協定)1期生2名に続き、2025年度は新たに4名の2期生を迎え入れました。受け入れにあたっては、生活面のサポートや日本語学習支援を充実させ、段階的に業務へ習熟できる体制を整備。現場では、国籍を超えた文化や価値観に触れることで、職員同士の相互理解が深まり、新たな気づきが生まれています。多様な人材が共に働く環境は、チームとしての視野を広げ、より柔軟で温かみのあるケアの実現につながっています。EPA職員存在は、利用者様にとっても職員にとっても、日々の支援に新しい風をもたらす貴重な力となっています。



多様性が支える介護の未来

事業内容：介護老人保健施設100名、通所リハビリ30名  
利用者層：高齢の方  
所在地：城陽市長池五社ヶ谷

事業総括  
大矢真弓



知的障害者デイサービスセンター

# あつぶ

障害のある方が地域のなかで自立した日常生活を営めるよう、日中活動の多彩なプログラムを中心に支援を行っているデイサービスセンターです。



## Topic 01 施設間連携による支援体制の強化 —— 翼との連携が生む新たな選択肢

「あつぶ」では、併設する障害者支援施設「翼」との連携を深め、利用者様とご家族の将来を見据えた支援体制の強化を進めました。2025年度は、短期入所の利用を具体的にイメージしていただくため、両施設合同で見学会を開催。日頃利用されている通所サービスに加え、宿泊を伴う支援の流れや環境を実際に見ていただくことで、生活の選択肢を広げる機会となりました。また、職員同士の合同研修も実施し、最新の支援技術や専門知識を共有。拠点全体で支援の質を高める取り組みが進んでいます。施設間の連携強化は、利用者様の安心につながるだけでなく、地域における包括的な支援体制の構築にも寄与しています。



連携が広げる暮らしの選択肢

## Topic 02 ご家族のニーズに応えるサービス拡充 —— 日中一時支援の見直しと体制整備

「あつぶ」では、特別支援学校との密接な連携を通じて、放課後や日中活動終了後の支援に対するご家族の切実なニーズを再確認しました。これを受け、現在提供している日中一時支援サービスの見直しを行い、利用時間延長に向けた本格的な検討を開始。2026年度からのスムーズな実施を目指し、人員配置の調整や運用ルールの策定など、受入れ体制の整備を段階的に進めています。ご家族の「もう少し預かってほしい」「安心して働きたい」という声に応えるための取り組みであり、地域の子育て・福祉を支える重要な基盤づくりとなっています。利用者様とご家族双方の生活を支えるため、今後も柔軟なサービス提供を追求していきます。



家族を支える柔軟な支援

事業内容：生活介護20名  
利用者層：知的障害のある方  
所在地：城陽市観音堂甲畑

センター長  
西田武志



身体障害者デイサービスセンター

# すいんぐ

高齢者デイサービスセンター

# すまいる



地域福祉支援センター城陽は二つのデイサービスセンターの運営を通じて、利用者様一人ひとりの生きがいの創出とご家族の介護負担の軽減に努めています。

## Topic 01 リハビリテーションメニューの充実 —— 楽しみながら取り組む機能訓練

「すいんぐ」では、従来のADL体操やレッドコードに加え、誰もが楽しめる運動レクリエーションとしてポッチャを導入しました。ルールを工夫することで参加しやすく、利用者様同士が褒め合い励まし合う活気ある時間が生まれています。また、個別ニーズに応じた自主トレ環境の整備も進め、要望の多かったルームランナーを入れ替え・増設。本格的なマシンを横並びに配置したことで、会話を楽しみながら歩行トレーニングに励む姿も見られ、運動と交流が自然に生まれる場となっています。



運動が生む活気ある時間

## Topic 02 安全への備え —— ご家族と共に学ぶ災害対策

「地域福祉支援センター城陽」では、水害時に最大2メートルの浸水が想定される立地を踏まえ、2025年度はご家族参加型の災害勉強会を開催しました。避難訓練の様子を見学いただいた後、法人のDWAT派遣メンバーが防災知識を講話形式で解説。段ボールベッドや簡易トイレの展示も行い、災害時の不安を具体的に解消する機会となりました。参加されたご家族からは「専門的な話が聞けて安心した」との声が寄せられ、防災意識の向上につながる有意義な取り組みとなりました。



備えが守る家族の安心・安全

## Topic 03 季節の行事と彩りのある暮らし —— 地域で続ける豊かな日常

「すまいる」では、利用者様の希望を大切に、季節を感じる行事を積極的に実施しています。夏祭りでは屋台風のレクリエーションでにぎわい、お花見外出では満開の桜の下で友人と語り合う穏やかな時間が広がりました。ご家庭では外出機会が限られがちの方にとっても、デイサービスで仲間と季節を味わう体験は大きな喜びとなっています。こうした行事は、住み慣れた地域での豊かな生活を支える大切な要素であり、今後も笑顔あふれる時間を創出していきます。



地域で味わう季節の喜び

事業内容：[すいんぐ]生活介護20名 / [すまいる]通所介護25名  
利用者層：[すいんぐ]機能訓練を希望する障害のある方  
[すまいる]65歳以上の方(第1号被保険者)、  
40歳以上65歳未満の特定疾病を罹患されている方(第2号被保険者)  
所在地：城陽市枇杷庄

センター長  
小原裕典



## 相談支援

障害児(者)地域療育支援センター

# ういる

障害者生活支援センター

# はーもにい

地域福祉支援センター城陽は、(市町村委託)一般相談支援事業所、および指定特定相談支援事業所として「ういる」、「はーもにい」を運営しています。また、ういるでは発達障害者地域支援マネジャーとして発達障害についての相談も受け付けています。



## Topic 01 心と身体を整える当事者居場所支援 ——アロマキャンドルとヨガ体験

「ういる」では、山城北圏域発達障害者支援センターとして、発達障害当事者の方々の「安心して過ごせる居場所づくり」を目的に交流会を開催しました。2025年度は、直接の会話が負担になりやすい方のニーズに配慮し、リラクゼーションをテーマにした新たな取り組みを実施。アロマキャンドルの柔らかな光に包まれた空間で、講師のレッスンに集中しながらヨガを体験していただきました。日常から少し離れ、自分の心身と静かに向き合う時間は、参加者それぞれが無理なく心地よさを共有できる貴重な機会となりました。安心して参加できる「居場所」としての役割を、今後も大切に育んでいきます。



安心が広がる癒やしの時間

## Topic 02 廃材に命を吹き込むクラフト体験 ——社会参加を広げる“かななフラワー”ワークショップ

「はーもにい」では、城陽市からの委託事業として、社会参加の機会が限られがちな精神障害・知的障害のある方々を対象に体験型イベントを開催しています。2025年度は株式会社かわな工業様を招き、木材の廃材を活用した「かななフラワーワークショップ」を実施。地域住民に加え、併設のデイサービスセンターすいんぐの利用者様も参加し、かんなくずを再利用して色鮮やかなフラワーブーケを作成しました。素材の温もりを感じながら指先を動かし、ひとつの作品を共に作り上げる体験は、参加者の自信や達成感につながり、豊かな社会参加の場を創出しました。地域と福祉が自然に交わる象徴的な取り組みです。



木の温もりが結ぶ地域交流の輪

利用者層：[ういる] 山城北圏域にお住まいの障害のあるお子さん、障害のある方  
[はーもにい] 城陽市、久御山町、井手町にお住まいの障害のある方  
所在地：城陽市枇杷庄

センター長  
小原裕典



## 通所支援

障害者デイサービスセンター

# わこう

## 相談支援

障害児(者)相談支援センター

# りーふ

## 相談支援

京都府地域生活定着支援センター

# ふいっと

地域福祉支援センター醍醐は、主に知的障害のある方が地域において安定した生活を送るための支援を行う「わこう」と「りーふ」、福祉の支援を必要とする矯正施設出所者の地域生活を支える「ふいっと」を運営しています。



## Topic 01 利用者作品が地域とつながる ——デイわこう作品展示・販売の取り組み

「デイわこう」では、利用者様の創作活動を地域に広げる取り組みとして、カフェぷらんたんの作品展示・販売を継続して行っています。個性豊かなアート作品や手工芸品は、カフェを訪れる地域の方々の目に触れ、利用者様の表現が地域社会とつながる大切な機会となっています。作品を通じて「誰かに見てもらえる」「喜んでもらえる」という実感は、利用者様の自信や創作意欲の向上にもつながっています。今後も展示の機会を増やし、地域の方々に利用者様の魅力を知っていただく場を広げていくことで、社会参加の可能性をさらに広げていきます。



作品が結ぶ地域のつながり

## Topic 02 地域生活課題に向き合う専門支援 ——京子(強固)の会による連携強化

「ふいっと」では、司法・福祉の連携を深め、地域生活の課題に対応するため、「京子(強固)の会」を定期開催しています。2025年度は計6回開催し、地域生活定着支援センターの役割や、弁護士による法的手続き・支援のポイントなど、実務に直結する学びを共有しました。また、各機関が関わる個別ケースの情報交換や困りごとの共有を通じ、支援の視点を多角的に整理し、理解を深める場となりました。司法・福祉・地域が“顔の見える関係”でつながることで、複雑な課題を抱える方々の地域生活を支える体制がより強固なものとなっています。今後も連携の輪を広げ、地域全体で支える仕組みづくりを進めていきます。



多機関連携が結ぶ支援の輪

事業内容：[わこう] 生活介護35名 / [りーふ] 計画相談 / [ふいっと] 地域生活定着支援  
利用者層：[わこう・りーふ] すべての障害のある方 / [ふいっと] 矯正施設を出所される障害のある方、高齢の方  
所在地：京都市伏見区日野

センター長  
小林 稔



通所支援

就労移行支援・就労継続支援A型事業所

# さびゅいえ

相談支援

障害者就業・生活支援センター

# はびねす



相談支援

障害者支援センター

# じゃすと

共同生活支援

# 宇治小倉 ホーム

地域福祉支援センター宇治小倉は、知的障害のある方の就労支援に力を注ぎながら、計画相談、グループホーム、ショートステイの運営にもたずさわっています。

Topic 01 福祉 × 子育て拠点

## こども食堂「あんさんぶる宇治」の開設 — 子どもたちの“安心できる居場所”づくり

2025年10月、「地域福祉支援センター宇治小倉」では、こども食堂「あんさんぶる宇治」を開設しました。孤食傾向のあるお子さんや、家庭での食事準備が難しい世帯を主な対象とし、宇治市こども福祉課と連携して必要な方へ確実に情報が届くよう配慮しています。2025年度は計6回開催し、延べ22名が参加。運営には職員のほか、龍谷大学の学生ボランティアや職員家族も協力し、回を重ねるごとに子ども同士の交流が深まりました。食事や遊びを通じて、家庭や学校以外の“安心できる居場所”として定着しつつあり、今後も継続して子どもたちの心に寄り添う場を育んでいきます。



地域で育む新たな居場所

Topic 02

## ITツール「SPiS」を活用した就労定着支援 — デジタルが支える“つながり”と安心

「はびねす」では、2025年度より就労支援ITツール「SPiS」を本格導入し、14名の利用者様に対して運用を行いました。日々のコメント交換により、利用者様と支援者のラポール形成が促進され、対面支援の間隔が開く時期でも継続的に状況把握が可能となりました。利用

者様からは「日常的なやり取りが安心につながる」との声も寄せられています。また、コメントの変化から不調の兆しを早期に察知し、適切な支援調整を行った結果、就職後定着率は100%を維持。デジタルを活用した新たな支援モデルとして確かな成果につながっています。

Topic 03 福祉 × まちづくり

## 地域連携推進会議の開催 — 地域の理解と協働で支える暮らし

「宇治小倉ホーム」では、2026年2月に地域連携推進会議を開催しました。入居者様のご家族、地域関係者、福祉専門職を招き、施設見学や法人事業の説明、利用者様の日常の様子を共有しました。利用者様は、平日は職場へ通勤し、休日は帰省や外出を楽しまれるなど、地域の中で活動的に暮らしています。障害のある方が安心して地域で生活をするためには、近隣住民の理解と協力が欠かせません。会議を通じて地域の一員としての姿を知っていただくとともに、外部視点を取り入れることで、より質の高い支援体制の構築につなげています。



地域と築く安心・安全の基盤

事業内容：就労移行支援・就労継続支援A型各10名、就労・生活相談、計画相談、共同生活援助20名（うち短期入所2名）  
利用者層：知的・精神・発達障害のある方  
所在地：宇治市宇治蔭山

センター長  
下前拓也



通所支援

デイセンター

# ふらっぶ

相談支援

障害児(者)相談支援センター

# ういっしゅ



地域福祉支援センター島本は、通所での生活介護に加え、一般就労の難しい方に就業機会を提供している「デイセンターふらっぶ」を中心に、ショートステイ、計画相談等に幅広く対応しています。

Topic 01

## 生成AIの民主化と現場実装 — 支援力を高める新たな基盤づくり

「地域福祉支援センター島本」では、生成AIを一部職員に限定せず、誰もが安全に活用できる「民主化」と、日々の支援へ組み込む「現場実装」を両輪として推進しました。倫理憲章やガイドライン、同意書を整備し、安心して利用できる環境を構築。講習会やマニュアル整備により職員の理解も深まりました。GPTsを活用した個別支援計画や行動支援、リスク管理などの実務支援も進み、アセスメントとAI分析を組み合わせることで支援の質向上を確認。人とAIが協働する新たな支援の形が広がっています。

生成AIの民主化と現場実装に向けて	
KGI	業務品質・効率を高め、 “人”にしか果たせない価値ある支援を届ける
KPI	週3回以上の利用 30% ⇒ <b>70%</b> 情報漏洩・正確性・操作不安 27件 ⇒ <b>70%削減 (8件)</b>

AIが拓く支援の未来

Topic 02 福祉 × 産業

## パン工房が紡ぐ地域とのつながり — ふるさと納税と企業連携

2025年度、パン工房で製造した商品が島本町のふるさと納税返礼品に登録され、利用者様が丁寧に仕上げたパンが全国へ届けられる取り組みが実現しました。地域に貢献する喜びは工賃向上にもつながっています。また、小野薬品水無瀬研究所の社員食堂での催事販売では、毎回約100個が30分で完売するほど好評で、企業のCSRとも合致した継続的な連携が進展。福祉と企業が信頼関係を深めながら、地域に新たな価値を生み出す取り組みとなっています。



パンが結ぶ新たな地域のつながり

Topic 03

## 地域とともに学ぶ障害理解セミナー — ういっしゅの啓発活動

「ういっしゅ」では、地域の障害理解を深めるため、年2回の啓発セミナーを企画・運営しました。2025年度は「子どもの発達特性の理解と支援」をテーマに、特別支援教育士と言語聴覚士を講師として招き、計24名が参加。発達特性への理解や家庭・地域での関わり方

について学ぶ機会となりました。参加者からは「具体的で分かりやすい」「家庭での関わりに活かせる」と好評で、地域全体で子どもを支える意識の醸成につながっています。



障害理解セミナーの開催

事業内容：[デイセンターふらっぶ] 生活介護25名・就労継続支援B型15名  
[ショートステイふらっぶ] 短期入所1日10名 / [ういっしゅ] 計画相談  
利用者層：すべての障害のある方  
所在地：大阪府三島郡島本町

センター長  
奥村一貴



若者等就労支援拠点

# サザン京都

「サザン京都」は、働くことに悩みを抱えている15歳から49歳までの方を対象とした地域若者サポートステーション京都南(厚生労働省委託事業)、中間的就労支援(京都府認定就労訓練事業)、ひきこもり支援(重層的支援体制整備事業)、生活困窮者支援等、「はたらく」と「はたらきつづける」をサポートする就労特化型の相談支援事業所です。



Topic 01

## 教育機関との連携 —— 京都文教大学「ふらっと相談所」の開設

2025年度より、京都文教大学との連携事業として、学内に出張相談窓口「ふらっと相談所」を開設しました。在学生だけでなく、休学中の方、卒業生、ご家族、教職員まで幅広く対象とし、進路や将来への不安、生活上の悩みなど、どのような相談でも気軽に話せる場として運営しています。学生生活や就職活動の中で孤立や不安が生じやすい時期に、専門相談員が大学へ赴くことで、早期相談につながり、安心感を提供できる体制が整いました。教育機関と福祉が連携することで、切れ目のない若者支援を実現し、次年度も継続して学生の「困りごと」に寄り添う支援を推進していきます。



大学に広がる安心の相談窓口

Topic 02  
福祉 × 大学

## 近隣府県サポートステーションとの連携 —— オンライン職業講話による“働く”のリアル発信

「サザン京都」では、他地域での就労を希望する若者が、現地の職業人や企業担当者の話に触れられる機会をつくるため、京都・大阪・兵庫・奈良・三重・愛知のサテライト・サポステと連携し、共同オンライン職業講話を実施しました。計17名が参加し、地域を越えた学びの場となりました。サポートステーション京都南は福祉分野を担当し、障害・高齢・児童など幅広い領域の魅力を紹介。現場経験を持つ職員へのインタビュー形式を採用し、仕事のやりがいや日常のリアルを伝えました。オンラインの強みを活かした利便性の高い支援として、次年度も継続し、若者の職業選択の幅を広げる取り組みを進めていきます。



地域を越えて広がる学び

事業内容：相談支援  
利用者層：若年で無業の方、就職氷河期世代、ひきこもり状態の方、生活困窮の状態にある方等  
所在地：城陽市寺田

センター長  
下野拓也



認定こども園

# ゆいの詩

「こどもが、まんなか」を合言葉に、自分で考え、挑戦していく主体性を育む教育・保育を実践しながら、子育て世代が安心して暮らせる地域の拠点となることをめざしています。

こども発達支援

# Cocoro島本

発達のゆっくりなお子さんを対象に、個別や集団での遊びを通じて、「楽しい」をたくさん経験し共有しながら、すくすくと成長できるようサポートします。



Topic 01

福祉 ×  
子育て拠点

## 安心して子育てができる環境づくり —— 病児保育と一時保育の実施

「ゆいの詩」では、地域の子育て家庭の多様なニーズに応えるため、病児保育と一時保育を実施しています。病児保育では、体調不良や回復期のお子さんを看護師と保育教諭が専門的な知識のもとで丁寧に見守り、安心して預けられる体制を整えています。一時保育では、保護者の就労や急な用事、リフレッシュなど、さまざまな事情に寄り添いながら柔軟に対応。家庭と園が協力し合うことで、保護者が日常生活を安心して続けられる地域の“頼れる場所”として、今後も支援を充実させていきます。



病児保育が支える家族の安心

Topic 02

## 事故未然防止に向けた危険箇所マップの作成 —— 安全と安心を守る園づくり

「ゆいの詩」では、子どもたちが安全に、そして心地よく過ごせる環境を維持するため、園内の安全点検を強化し、独自の危険箇所マップを作成しました。日常に潜むリスクを職員全員で洗い出し、園庭・保育室・通路など子どもの動線に沿って整理することで、物理的な改善と職員の意識向上を同時に推進。共有されたマップは日々の保育に活かされ、事故の未然防止に大きく寄与しています。今後もハード・ソフト両面から安全対策を徹底し、子どもたちが安心して過ごせる園づくりを最優先に取り組んでいきます。



備えが守る子どもの安心・安全

Topic 03

## 移動が“安心と体験”に変わる時間へ —— 利便性向上のための送迎サービス開始

「Cocoro島本」では、より多くのご家庭に安心して利用いただけるよう、自宅や保育園などへの送迎サービスを開始しました。送迎は単なる移動手段にとどまらず、車窓の景色を楽しんだり、支援員や友だちとの会話が弾んだり、子どもにとって“楽しみの時間”にもなっています。保護者にとっては送迎負担の軽減につながり、通所のハードルが下がることで継続的な支援利用が可能に。今後も利便性と子どもの豊かな経験の両立を目指し、地域の子育てを支える取り組みを進めていきます。



送迎が生む安心と新たな体験

【ゆいの詩】  
事業内容：教育・保育  
利用者層：乳児・幼児=1号認定6名  
2・3号認定150名  
所在地：大阪府三島郡島本町



園長  
吉田由季

【Cocoro島本】  
事業内容：児童発達支援  
利用者層：市町村の健診や発達相談を通じて療育を  
勧められた概ね2歳から6歳の児童10名  
所在地：大阪府三島郡島本町(認定こども園ゆいの詩に併設)



管理者  
河野翔太

# もりの詩保育園

小規模保育園

## そらの詩

小規模保育園

## るりの詩



異年齢保育、主体性を育てるプロジェクト保育、一日を見える化するドキュメンテーション等を特色とする3つの保育園を運営しています。

Topic 01  
福祉 × 子育て拠点

### 地域とともに育つ保育 —— 絵本がつなぐ“愛された記憶”

「もりの詩保育園」では、二条駅かいわいまちづくり実行委員会のご厚意により、「読み聞かせの会」を開催しました。講師からは「絵本は知識ではなく、読んでもらう喜びの体験であり、生涯に残る“愛された記憶”になる」との温かなメッセージをいただきました。参加した保護者や職員にとっても、絵本を通じて子どもとどう向き合うかを改めて考える貴重な機会となり、地域と園が共に子どもの育ちを支える時間となりました。



地域と育む愛された記憶

Topic 02  
福祉 × 多世代交流

### 多世代交流が育む心 —— 高齢者サロン「とんからり」との交流

「もりの詩保育園」では、京都市中京区社会福祉協議会の紹介により、年長児が地域の高齢者サロン「とんからり」と交流しました。お手玉やあやとりなどの昔遊びを教わったり、歌を披露し合ったりと、世代を超えた温かな交流が生まれました。「おばあちゃんにあやとりを教えたあげた！」と誇らしげに話す園児の姿や、「子どもたちから元気をもらいました」という地域の声や寄せられ、互いに喜びを分かち合う時間となりました。地域で共に生きる実感を育む大切な取り組みです。



多世代交流が育む地域のつながり

Topic 03  
福祉 × 地域交流

### 地域に見守られる保育 —— るりの詩の“つながり”を育む活動

「るりの詩」では、地域の方々との日常的な交流を大切にしています。毎月第4月曜日には、社会福祉協議会のボランティアによる「お話の会」が定例開催され、子どもたちは語りや絵本の世界に親しんでいます。また、クリスマス会ではマジックショーやミュージックベルの演奏を通じて交流が深まり、多くの大人に見守られる温かな時間が生まれています。こうした継続的な関わりを通じて、子どもたちが豊かな社会性を育める環境づくりを進めています。



地域と紡ぐ子どもの育ち

[もりの詩] 事業内容：保育60名 利用者層：乳児・幼児 所在地：京都市中京区	[そらの詩] 事業内容：小規模保育12名 利用者層：乳児 所在地：京都市中京区	[るりの詩] 事業内容：小規模保育19名 利用者層：乳児 所在地：大阪府三島郡島本町
--------------------------------------------------	--------------------------------------------------	-----------------------------------------------------

総括園長  
山崎里美



CAFE

## 地域をつなぐカフェから生まれる、新しい共生のかたち

知的障害のある方やひきこもりの方々の働く場として、自家農園の野菜を活用した3つのカフェを運営しています。これらのカフェは就労支援の場であると同時に、地域と施設をつなぐ交流拠点として、多世代が自然に集い合う「サードプレイス」として機能しています。子どもから高齢者まで誰もが気軽に立ち寄り、日常の中で温かなつながりが生まれる場所として、地域の暮らしに新しい価値を育んでいます。

「福祉の出来事」を「地域の出来事」へと広げる取り組みとして、共生・共助の理念を具体的に形にしています。

2025年度  
カフェ来客者数

19,056人

## ぷちぽんと kitchen+farm

自家農園で育てた新鮮な野菜を使ったヘルシーなランチが人気の野菜カフェです。店名の「ぷちぽんと(小さな橋)」には、地域と施設をつなぐ架け橋になりたいという思いが込められています。緑化イベントやマルシェ、特別支援学校との催しなど、多彩な活動を通じて地域に開かれた交流の場を育ててきました。誰もが気軽に立ち寄り、日常の中で温かなつながりが生まれる“地域の小さな橋”として親しまれています。

所在地：京都府城陽市富野東田部69番地1(障害者支援施設「凜」内)



福祉が地域を結ぶ小さな橋

## カフェぷらんたん

醍醐エリアの玄関口に佇む一軒家カフェです。樹齢70年の桜を望むテラスでは、春のライトアップをはじめ、夏の木陰、秋の紅葉、冬の雪景色と四季の移ろいを楽しめます。こうした自然の魅力に誘われ、地域の方々気軽に集い、語り、くつろぐ交流の場として親しまれています。子どもから高齢者まで、多様な世代が日常の中でつながりを育む“地域のリビング”として、まちに温かな時間を届けています。

所在地：京都市伏見区日野西川類4-2



四季を感じる憩いのテラス

## カフェさびゅいえ

店名の「さびゅいえ」はフランス語で“寄り添う”を意味し、その名のとおり地域にそっと寄り添うカフェ&工房です。自家農園で育てた低農薬野菜を使った料理や自家製スイーツを提供し、城陽茶業組合と連携した抹茶菓子「ブルドネージュ」も高い評価を得ています。ものづくりと食を通じて地域とつながり、誰もが気軽に立ち寄れる温かな交流の場として、共生の輪を広げています。

所在地：京都府宇治市宇治蔭山9番地11



地域にそっと寄り添うカフェ



# 地域をつなぐ架け橋

福祉が地域の日常へ  
広がる瞬間



南山城学園では、利用者様が生み出す多彩な商品が、地域の皆様の暮らしに寄り添い、新しいつながりを育んでいます。ひとつひとつの取り組みが、福祉の営みを地域へとひらく「架け橋」となり、「福祉の出来事」が「地域の出来事」へと広がっています。ここでは、その歩みを象徴する商品を紹介합니다。

## スイーツ・食品

### パウンドケーキ、クッキー

(カフェぶちぽんと・ぶらんたん・さびゆいえ)



素材と製法にこだわり、一つひとつ丁寧に焼き上げた自慢のスイーツです。しっとりとしたパウンドケーキと、サクサクのクッキーは、ほっと一息つきたいティータイムやギフトにもぴったりです。

### 一粒の極み ブールドネージュ

(就労移行支援・就労継続支援A型さびゆいえ)



城陽の伝統産業である抹茶を使った極上の焼き菓子です。ほろほろとほどける食感と豊かな風味が調和した一品。自分へのご褒美に、特別な方へのギフトにも最適です。

### ふらっぷのパン

(地域福祉支援センター島本・デイセンターふらっぷ)



水を使わず100%牛乳で練り上げた生地と高級砂糖「和三盆」の贅沢な甘み特徴です。利用者様と職員が協働し、心を込めて日々焼き上げています。島本町のふるさと納税返礼品に登録されています。

## クラフト

### 輪っか座布団

(障害者支援施設 紡)



程よい硬さと安定感があり、座り心地にこだわった手編みの座布団です。靴下工場の端切れを再利用しています。インテリアに馴染む色合いから、お部屋のアクセントになるカラフルなもので豊富に取り揃えています。

## 農産物・雑貨

### 野菜 (障害者支援施設 魁・凜)



大地の恵みをいっぱいに浴びて育った、新鮮で安心・安全な季節の野菜です。利用者様が日々愛情を込めて大切に育てています。

### ハーバリウム (障害者支援施設 凜)



色鮮やかなドライフラワーをボトルに閉じ込めた、お部屋を彩るインテリア雑貨です。利用者様の感性による世界に一つだけの美しい配置やカラーリングを楽しめます。

## 農業・園芸資材

### 堆肥 (障害者支援施設 円)



地域の自然の恵みを活かし、じっくりと時間をかけて熟成させた高品質な堆肥です。豊かな土壌づくりを支え、家庭菜園や地域の農業で大変喜ばれています。

### よしず 葎簀 (ほんず栽培用) (障害者支援施設 和・紡)



抹茶の原材料になる碾茶の伝統的な「ほんず栽培(覆下栽培)」に欠かせない、上質な葎簀を製作しています。熟練の技術と丁寧な手仕事で編み上げられた一品です。

製品の購入や詳細に関する  
お問い合わせはこちらから

法人事務局  
TEL: 0774-52-0425 (代表)



2025年度事業報告書  
発行: 社会福祉法人 南山城学園  
〒610-0111 京都府城陽市富野狼谷2-1  
TEL 0774-52-0425  
<https://minamiyamashiro.com>



表紙のイラストは南山城学園の利用者様が心を込めて描いてくださいました。  
暮らしから生まれた表現が地域へ広がり、「福祉の出来事」を「地域の出来事」へとつなぐ思いを象徴しています。